



しのみや

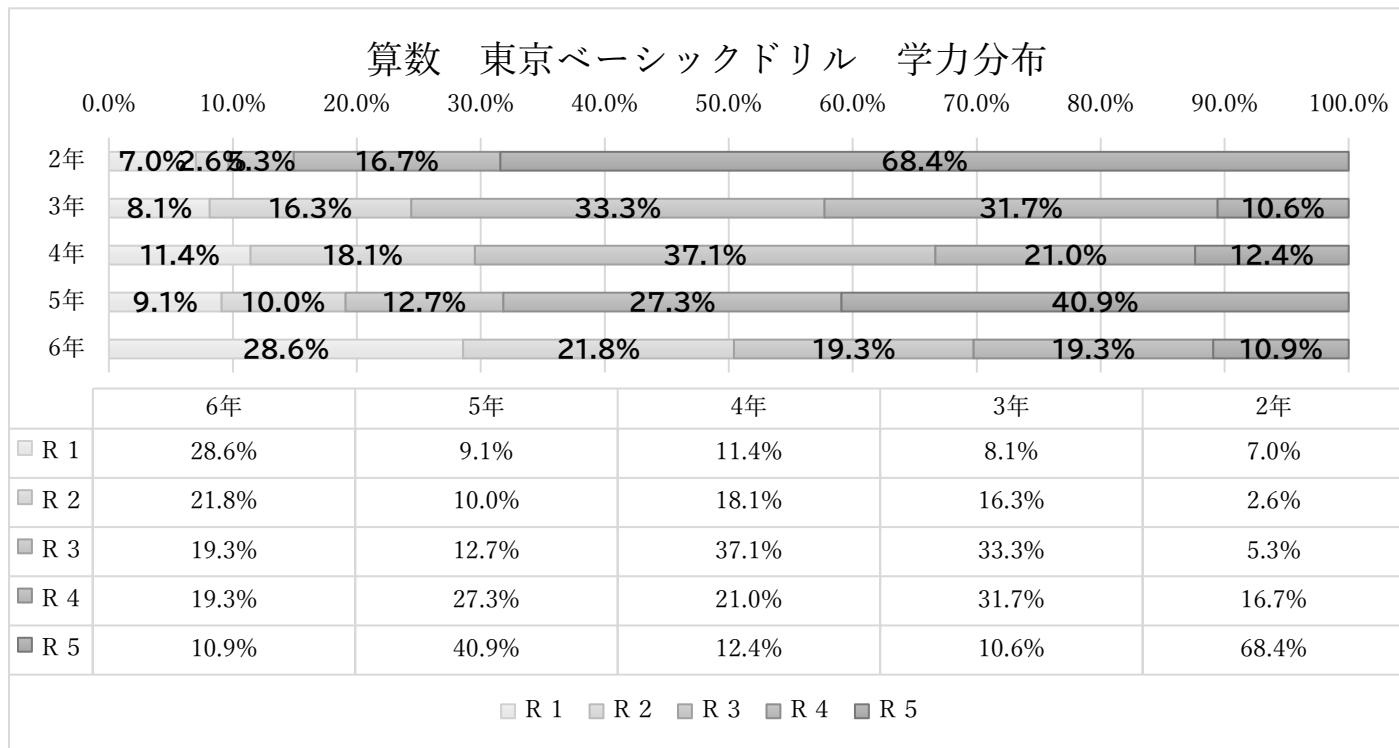


杉並区立四宮小学校
令和5年9月29日

令和5年度学力向上への取り組みについて

主幹教諭 曽木 誠

令和5年度の学力向上への本校の取り組みについてお知らせいたします。昨年度同様、算数に関しては東京都教育委員会の提供している「東京ベーシックドリル」を、国語では普段のワークテスト等の学習データを基に、児童の学習状況調査の分析を行い、傾向の分析をと対策の検討をしました。また、今年度は新たに都の学力向上に向けての意識調査とともに児童の傾向をつかみ、学力向上に向けた手立てを各学年で検討しました。以下にまとめましたので、御家庭でのお子さんの学習にも生かしていただければと思います。



※R1<R2<R3<R4<R5 の順で、R1は努力を要する段階、R5が十分に学力が身に付いている段階です。

※各学年の課題の傾向と改善策は裏面に記載しています。

東京都学力向上意識調査の結果と考察

意識調査結果	意識調査を受けた考察と手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・本校の児童は素直で真面目である。 ・自分が誰かに認められているといった自己肯定感は低い。 ・多様性、意見の違いによって学びが深まることや学びの楽しさを感じていない。 ・通塾率は低い。 ・授業中のタブレット使用率は高いが、家庭での学習に生かされていない。 ・自分に合った授業の進め方になっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方や家庭の努力によって児童は学力の定着が図れている。 ・基礎基本はこれまで通り定着を図りつつ、個々の学習状況に応じて「考える力」を高め、さらに発展的な学習に進めていく。 そのために、 ・児童個人個人の学びを保証してあげる環境を作り、授業中に、その子がどんな考えをもち、どういう方向に進んでいるかを把握する教師の見取り力を高めていく。

3 各学年の課題の傾向と改善策

	国語		算数		
	学年	課題の傾向	改善策	学年	課題の傾向
1年	<ul style="list-style-type: none"> ひらがなの読み書きに困難がある。 音読の際に言葉をまとまりとして認識できないので読み方がたどたどしい。語彙が少ないので、言語経験が少ないなどの原因が考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉集めなどの活動を通して言語経験を耕す。 児童が文章や文字に関心をもちやすくなるよう、読書活動を促す。必要に応じて担任の読み聞かせを実施する。 隙間時間にしりとりなどの言葉遊びを取り入れ、語彙を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算の仕方を考えるときに、具体物を抽象物に置き換えて考えることが難しい児童がいる。 指を使って計算を考えるときにも、正しく指で数を表したり操作したりできない児童がいる。 数えるものに合わせて、適切な助数詞を選ぶことができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数を数えたり、簡単な加減の考え方など生活経験を増やしていく。 計算カードに毎時間取り組むなどして、習熟を図る。 具体物を使って数を数える活動を積極的に取り入れていく。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ひらがな、カタカナ、1年生配当の漢字の読み書きに困難がある。 基本的な語彙が少ない。 正しい文法で自分の考えを発表することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の課題に合わせ、繰り返し練習させる。 語彙を増やすための取り組みをする。(本の読み聞かせ、児童同士の作品の読み合い、教材文の語彙の確認等) 話し方の台本、話型を準備して、それに合わせてきちんと発表できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 単純な計算はできるが、その仕組みを言葉で説明することが難しい。 文章問題で、何を聞かれているのか読み取れなかったり、正しい立式ができなかったりする。 思考力を問われる問題では、文意を理解することが難しいことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、計算の仕組みを説明させる場面を増やし、確認する。 文を丁寧に読み、大切な言葉や数量を確認するように指導する。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> 定型文を工夫して、自分の考え方や気持ちが伝わりやすくなるように工夫しようとすることが課題である。 2年生の漢字の定着ができないため、3年生での新出漢字も理解が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい文章のよさに触れ、進んで文章を書こうとしたり、工夫して書こうとしたりする態度を育む。 夏休みなどの長期休業中に、低学年の漢字や助詞の使い方の復習に取り組ませ、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に対する意欲が著しく低く、取り組むことすら困難な児童もいる。 基本的な計算に関しては概ね定着しているが、単位換算や図形問題等の理解に課題がある。 問題文の場面理解が十分にできていおらず、図に表して答えるような問題は苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 未回答の児童に関しては、学習に取り組むことができるよう家庭と連携しながら対応を行う。 くりかえし計算ドリルを活用したり、問題の解き方を説明したりする場を設ける。 問題に対する多様な考えに気付かせ、線分図や図に表現したり説明したりする力を高める。 	
4年	<ul style="list-style-type: none"> 文章全体の意味を捉えるため、主語と述語をつなげたり、文章のまとまりを意識したりすることが難しい。 物語文や説明文では、段落のつながりや関係を読み取ることが難しい。 問題の意図や、文章の最も伝えたいことを理解することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明文の学習では、段落ごとやまとまりごとの要約を通して、内容の理解を深める。 自分で課題を選択して学習を進め、グループでの交流をすることで、様々な考え方や読み取り方があることを知る。 取り組みやすい課題や、達成感を得られる課題を設定し、意欲や自己肯定感を育み、すすんで学習する態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題の数量関係を式や図に表すことが難しい。 計算や作図など知識・技能に関する学習については理解できるが、勘違いの間違いがある。 知識・技能を問う内容は理解できているが、応用力が必要な課題に苦手意識がある。 解ければいいという速さだけを追求してしまい、すぐに難しいと判断してしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ケアレスミスをなくすため、見直しや振り返りのために途中の計算式も書いて残しておく。 つまずきやすい内容、ミスが多い内容は繰り返し丁寧に取り組むようにする。 数直線のかき方、文章問題の読み取りを丁寧に行い、文章をイメージして立式をさせる。 	
5年	<ul style="list-style-type: none"> 文章全体の意味を捉えるために、主語と述語をつなげたり文章のまとまりを意識したりすることが難しい。 物語文や説明文では、段落のつながりや相互関係を読み取ることが難しい。 問題の意図や、文章の最も伝えたいことを理解できないことがある。 相手の考えを聞いて、考えたことを伝えることができないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書量が少ないため、いろいろなジャンルの本をすすんで読むよう支援する。 説明文の学習では、内容の要約などを通して事柄の理解を深めるとともに、自分自身の経験と関連付けて考えたり表現したりする時間を設ける。 取り組みやすい課題や達成感を得られる課題を設定し、意欲や自己肯定感を育み、すすんで学習する態度を育む。 グループ、ペア活動など自分の考えを相手に伝える場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題の場面を理解し、正しく演算決定をすることが難しい。 問題の数量関係を式や図に表すことができない児童がいる。 自分の考えを記述することに課題がある。 算数の用語を正しく理解し、活用することが困難な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 条件を整理したり、場面を図や数直線に表したりすることを指導する。 思考した過程を一人一人が表現する時間を確保する。 思考した内容を友達と伝え合う場面を設ける。 既習の考え方を用いて問題解決をして、算数的な考え方を積み上げていく。 	
6年	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読み取る力が弱く、質問の意味が分からなかったり、自分の勝手な解釈で文を読み進んでいく傾向がある。 文法的に正しく書いたり、自分の考えが伝わるように意識して書くことができないことがある。語彙力が低い。 課題の難易度が上がるとあきらめてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して意欲的に取り組める子が多いが、基礎的な技能が身につかないまま取り組んでしまうことがあるので、課題の取り組み方、工夫の仕方など丁寧に説明する。 語彙力を高めるために、読書する時間を確保し、言葉や文章に触れる機会を増やす。 自分で見直したり、他の考え方がないかなど振り返ったりすることを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な問題では、意味を理解し立式することが難しい。 時間が経つと既習事項を忘れてしまい、ミスをすることが多くなる。定着しきれていない。 問題を数直線にして表現するなど自分の考えを可視化せず、解ければいいという速さだけを追求してしまう。 問題を読み難いと判断すると諦めてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物や半具体物を使い、図形についての理解を深め、イメージさせ、つまずきやすい内容、ミスが多い内容は繰り返し丁寧に取り組ませる。 数直線のかき方、文章問題の読み取りを丁寧に行い、文章をイメージして立式をさせる。 自学ノートなどで自分の苦手なところに取り組ませるとともに、興味のある課題から応用力を身に付けさせる。 	